

科目名	発達障害教育特論	担当教員	仁平 義明
科目属性	専門科目 C	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)

【授業の目的・ねらい】

【授業の概要】

授業の到達目標に記載されたテーマにそって、各回の授業内容を確実に学習していく。具体的には次の(1)～(5)を行っていく。

- (1) 授業計画にそってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。
- (2) 必要に応じて参考資料を自分でも検索しダウンロードして読み、知識を広げる。
- (3) 求められた課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。
- (4) スクーリングでは、最新の状況について根拠となる資料を知るとともに、研究法についても学習する。
- (5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。

【授業の到達目標】

授業のサブタイトルは「子どもに障害をどう理解させるか」である。

文部科学省は、平成 30 年 2 月 8 日、「障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流について」(依頼)というタイトルの課長名通知を出して、「児童生徒等が主体的に取り組む活動とすること」「日常の学校生活においても障害者理解に係る丁寧な指導を継続して実施すること」などを求めた。

この授業は、「障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流」の前提になる、子どもの障害理解教育を具体的にどう構成するか、必要な知識とスキルを獲得することをゴールとしている。

授業の下位の目的は、次のものから成り立っている。これらは、テキストのほか参考文獻や自分で検索した文獻を読み込みことではじめて達成できる。

- (1) <発達障害の理解> 障害理解教育を行うために、教育者自身が発達障害についてある程度深い理解ができる。
- (2) <特別支援教育の本質の理解> 特別支援教育とはどのようなものであるか、本質が理解できる。
- (3) <障害説明の目的の理解> 障害について説明することの目的はどこにあるかを理解している。
- (4) <障害説明に含める要素の理解> 障害の説明に、どのような要素を含めたらよいかかわかる。
- (5) <障害説明の効果の理解> 障害説明の効果のアセスメントができるようになる。
- (6) <障害説明のリスクの理解> 障害説明にともなうさまざまなリスクを理解している。

【授業計画】

第1回：日本において、発達障害という概念の定義がどう変化してきたかを学習する。

第2回：発達障害のうち、とくに自閉スペクトラム障害について学習する。

第3回：日本の特別支援教育システムについて学習する。

第4回：子どもに障害について説明をする目的について学習する。

第5回：障害説明に含める12の基本要素のうち「① 障害名・“障害”という表現」「② 障害の原因」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第6回：障害説明に含める基本要素のうち「③ その子の抱えている困難(症状)」「④ 障害のある子自身の気持ち・親の気持ち」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第7回：障害説明に含める基本要素のうち「⑤ その子が特別な存在ではないこと」「⑥ 周囲に起こりがちなマイナスの反応」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第8回：障害説明に含める基本要素のうち「⑦ その子にどうふるまったらよいか」「⑧ 障害のある子のポジティブな側面」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第9回：障害説明に含める基本要素のうち「⑨ 障害のある子の将来の目標」「⑩ 周囲が協力・サポ

ートできること」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第10回：障害説明に含める基本要素のうち「⑪ その子への教育的処遇・家庭での対応と理由」「⑫ 今後の変化・進歩・改善の見込み」を説明に含める場合に考慮すべき問題を理解し、説明に含めることができるようになる。

第11回：障害説明について「注意点のまとめ」を読み込んで、子どもに障害を説明するときのリスクについて学習する。

第12回：「親による他の親への説明」と「教師による子どもへの説明」の例を作成しながら、説明のスキルを形成する。

第13回：子どもの質問に答えるかたちの説明とあらかじめ説明する場合のちがいを学習する。

第14回：説明の効果のアセスメントをどうしたらよいかを考察する。

第15回：障害のある子について他の子にどう説明したらよいかだけでなく、本人への「障害告知」をどうするか、参考文献を参照しながら、考察する。

科目修得試験

【評価方法】

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合しての評価となる。

【教科書】

相川恵子・仁平義明（2010）．『子どもに障害をどう説明するか—すべての先生・お母さん・お父さんのために—』おうふう．

【参考図書】

*以下のものは、参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも、自分で必要な文献は検索して学修すること。

- (1) 「発達障害者支援法」「発達障害者支援法施行令」「発達障害者支援法施行規則（厚生労働省令）」「発達障害者支援法の施行について（文部科学省・厚生労働省次官通知）」にある「発達障害」の定義（各省のウェブサイトを検索・ダウンロード可能）。
- (2) 吉田友子（2011）．『自閉症・アスペルガー症候群「自分のこと」のおしえ方』学研プラス．
- (3) 東條吉邦・大六一志・丹野義彦編（2010）．『発達障害の臨床心理学』東京大学出版会
- (4) 仁平説子（2018）．『自閉症とアスペルガー症候群 対応ハンドブック』東北大学出版会
- (5) 仁平説子・仁平義明（2006）『アクロニムで覚える自閉症とアスペルガー障害の対応のちがい』ブレーン出版

*この書籍は絶版になっているので所蔵している図書館を通じて読むしかないが、障害の特徴別に具体的にどう対応したらよいかの部分はほとんど上記の（4）に転載されている。

- (6) 文部科学省（2017）『特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』